

の学習会を立ち上げるにあたって、地域の方に呼びかけたところ、15名ほどの方がすぐに賛同してくれたことに驚いた。参加者の中には、幼少期に集団疎開や敗戦を経験した方も多く、その動機は、「歴史に興味があり勉強しなおしたい。」とか「今、起きている事象、例えば憲法問題、衰退していく労働運動、理不尽な日米地位協定などがどのような経過をたどって今に至るのかを明治以降、特に戦後の歴史から詳しく知りたい。」というものだった。そこで参加者の要望に合わせ、近現

代史から勉強会を始めることにした。

この教科書の良いところは、物語のように読める事。人間が活着している証を綴っている事だと思う。現在アドバイザーとして3人の先生を迎え、教科書(本文、写真、図表)を読み合わせ、感想・疑問・意見交換をするという形で月1回のペースで行っている。また、学習会の内容のまとめを作成して、次回には配布することになっている。

## 歴史を学ぶにあたって 大事にしたい3つの事

①ある事象について、なぜそれが起きたのか、だれが何の目的で起こしたのか。それが起きたことによってどう変わっていったのか。因果関係を考えよう。②書かれたことを鵜呑みにせず、真実かどうか検証しよう。③社会の構造を知ったうえで考えよう。これらのことを確認して勉強会を進めてきた。

第8章「帝国主義の時代」で日清・日露戦争から始まる日本の侵略戦争への道は起こるべくして起きたのだということも納得した。また、「明治天皇とロシア皇帝の開戦の勅語」(p.198)はどちらも「極東アジアの平和のため」という大義名分が記されており、戦争の理由はいつも身勝手だということ。そして侵略はその地域の文化(言語・生活習慣)を奪うこと。その地域の担い手(若者・労働力)を奪うことなどがはっきり認識できた。

市民の中から「歴史の学び直し」が始まった!

物語のように読める『歴史教科書』

# 大人も歴史を学びたい

●板橋区・大人の学び広場(東京都)

野口 恭子

## 作られた歴史を見ぬくこと

例会を続ける中で見えてきたこと。それは今まで何気なく知っていた事実は、情報操作の中で作られた歴史が多いということだった。

「天皇主権の憲法」(p.186)の学習では、「昔からの伝統」と思い込んでいた天皇制が、実は明治時代に明治政府が意図的に国民に浸透させていったということがわかってきた。

おりしも、マスコミは、天皇退位、新天皇即位、令和改元のニュースで持ちきり。そもそも戦後新しい憲法の下で規定された象徴天皇とは何だろうか?これからどうあるべきだろうか?という疑問がわいてきた。

そこで、6月の例会では、教科書から離れて「天皇制のこれまで・これから」という特別テーマで、広く参加を呼びかけ勉強会を行った。参加者23名が意見交流を行う中で、正しい情報を得て考えることの大切さを強く感じた。

## 参加者の感想

- ・日本と清の戦いだったのに、なぜ戦場が朝鮮だったのか、不思議。昔学校で東学党は「悪者」、日清戦争は正義の戦いだったと習ったのに…。
- ・「重要単語を暗記する」という歴史の勉強ではない学び

方ができる。多くの子ども達がこういう教科書で勉強できると良いと思う。

・社会人対象の講座も多くあるが、この会は一方向的な講義ではなく意見交流の中で毎回新しい発見があり楽しい。